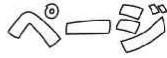


# ホーム



中学生のころ・・・

収書・整理課 栗原さとみ

中学生のころ『図書館貸出カード』というものがありませんでした。ピンク色の小さい2つ折で生徒手帳に挟んでおくものです。内容は「貸出日・書名・返却日・印」といったもので1枚に20冊書き込みができたと思います。

一緒に帰っていた友達が電車の中で熱心に本を読み、カードを2枚、3枚と更新していくのを見て、私も本を読むようになりました。そうやって好きになったのがオルコットでした。（『若草物語』や『昔気質の一少女』などが有名。今の中学生も好きかな。知っているかな。）今思えば、ゆったりと幸せな時間を過ごしていたのだと思います。

その名残か大人になって本を読むと、メモに読んだ日にちと書名を書いていました。そのカードもメモもすでになく、現在はもっぱら雑誌と実用書の拾い読みです。何となく気忙しい毎日を送っています。

子どもだけでなく大人もすぐカッとなるとか、我慢ができなくなってきた原因の1つに活字離れもあるのでは、と読んだことがあります。学生さんにはたくさん本を読んでゆったりとした時間を過ごしてほしいと思います。そして友達に「○○の本よかったよ」とかの会話もしてほしいなと思っています。ちょっとオバサンくさいですけど。

一ちなみにこの間「読んでみて」とすすめたのが『日曜日の夕刊』という文庫本（重松清著）で、無理やり読まされた夫は「読んだ。よかったな。」とだけ言うてくれました。私は2回泣いたのに。胸がキュンとなる短編集でした。

—

利用相談カウンターにて

閲覧課 伊豆田幸司

私は現在、主に図書館にて利用相談等の業務に携わっております。大学図書館という特性上、簡単な読み物から外国語の難解な論文まで、受け付けるリクエストの内容は多岐にわたります。今回は、そんな業務の中で気になっていることをいくつか書いてみようと思います。

利用相談を受けて困る質問として、質問してこられる方自身が、どんな資料を必要としているのかわかっていない場合が挙げられます。

例えば「環境の本はどこにありますか？」というもの。環境（学）と一口に言っても工学・教育・行政・保全…と非常に多くの分野に関連するために、本当に必要とされる資料にたどり着くまで時間がかかってしまうこととなります。また、「なんでもいいから○○の書いてある本を借りたい」というのも、同様に大変な質問と言えます。これらの場合にはまず、シラバスや講義の中で、先生が学習の参考となる資料を何か挙げていなかったか尋ねることになります。

（シラバスの 中に答えは きっと有り）

さて、利用相談業務において、インターネットは必要不可欠なツールです。日々の業務でも、このサイトをご覧になればあなたが必要としている情報が入手できます、とお答えする場合があります。

ですが、匿名性や情報発信の簡易さから、インターネット上の情報は紙上の情報に比べ信頼性という点で疑問符が付くことも少なくはないため、利用相談業務で活用する際には